

キャラクター名
王耀

プレイヤー名

種族	ドレイクナイト	種族特徴	暗視、魔剣、飛行、竜化、光のプレス、弱点(魔法+2)		
生まれ	剣士	性別	男	年齢	そんなの忘れたある
冒険者Lv	17	経歴	創造性に目覚めた		
経験点	1500		殺戮に飽きた 人族にあこがれている/なりたい		

技	14	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
		器用度	4	34		52 + 2	9
体	13	敏捷度	5			19	3
		筋力	7	46		66	11
心	5	生命力	11	60		84	14
		知力	13			18	3
		精神力	8			13	2

技能	Lv.	技能	Lv.
フェンサー	17		
ウォーリーダー	12		
ダークハンター	16		

戦闘特技			
武器習熟A/投擲	IB31 p		p
防具習熟/金属鎧	222 p		p
武器習熟S/投擲	IB31 p		p
命中強化	IB32 p		p
両手利き	IB32 p		p
武器の達人	3144 p		p
スローイング	IB30 p		p
二刀流	IB30 p		p
防具習熟S/金属鎧	IB32 p		p
二刀無双	IB31 p		p

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
ドレイク語	○	○
汎用蛮族語	○	○

練技/呪歌/騎芸/賦術	
怒涛の攻陣Ⅰ	
怒涛の攻陣Ⅱ:烈火	
怒涛の攻陣Ⅱ:旋風	
陣率:慮外なる烈撃Ⅰ	
陣率:衝戟の刪策Ⅰ	
蘇る秘奥	
怒涛の攻陣Ⅲ:轟炎	
怒涛の攻陣Ⅲ:旋刃	
怒涛の攻陣Ⅳ:輝斬	
大いなる挑発	
怒涛の攻陣Ⅴ:獄火	
勇敢なる軍歌	

名誉アイテム	点数
名誉点 所持 0 /合計 0	

技能	基本 レベル	基本 命中力	基本 回避力	基本追加 ダメージ
ファイター	0			
グラブラー	0			
フェンサー	17	26	20	28
シューター	0			

鎧と盾		必要 ランク 筋力 回避力 防護点		
鎧	ドントレシアの堅忍甲冑		22	10
盾	アステリアの守り		6	2
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)				3
回避技能	フェンサー	合計値	20	15

武器	用法	必要 筋力	命中 修正	命中力	C値	追加 ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
竜生九子	1H投	15	3	2d+ 31	9	35	45										
龍飛鳳舞	1H投	15	3	2d+ 31	9	35	45										
ドレイクの魔剣	2H	20		2d+ 28	9	28	30										

一般装備品	(消耗チェック)
バルバロス携帯品セット	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□

	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
	○□□○□□
所持金	-301700 G
預金・借金	G

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP
3 m	19 m	57 m	2d+ 20	15	135

魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP
2d+ 0/X	2d+ 15	2d+ 31	2d+ 19	13

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力

装備品	説明
頭	
耳	
顔	
首	
背中	
右手	
腰	
足	
その他名声の軍師徽章	鼓砲と陣率の使用に必要。戦闘中に1回だけ鼓砲の系統変更時にランク維持

装備品	説明
左手 宗匠の腕輪	

その他メモ	自動失敗 チェック
どこからともなくやってきた商人。蛮族のエリートであるドレイクであるのは明らかだが、守銭奴かつ商人人気全開な彼にはそのような威圧や風格が良くも悪くも感じない不思議な青年。風の噂ではどこかの国で蛮族の軍を率いて数々の国取りを成功させた軍人だという話はあるが、本人は「そんなこともあったかもしれねえある！」と笑い飛ばすのみで、真相は定かではない。	○□□□⑤
	○□□□⑩
	○□□□⑮
	○□□□⑳
	○□□□㉑
	○□□□㉒
	○□□□㉓
	○□□□㉔
	○□□□㉕
	○□□□㉖
	○□□□㉗
	○□□□㉘
	○□□□㉙
	○□□□㉚
	○□□□㉛
	○□□□㉜
	○□□□㉝

むかしむかし、あるところに竜の子がいました。子供はとても強く、物心つく頃から戦場へとかり出されていました。片手には剣を持たされ、ただ父親だったものにいらぬものだからこわしなさいと言われ、子供はその通り沢山たくさんこわしました。その時にもらえたお金をにぎって、はじめて買ったおかしはなによりもおいしく、お金があればこんなにうれしくて幸せなことができるのかとよこぎりました。たくさんこわしてこわしつづけたある日。ふと人間が作ったぬいぐるみをお店で見つけました。白と黒のふしぎな動物のぬいぐるみになぜかきょうみを持った大人になった子供はおかねで買いました。人間は彼のすがたにおどろきましたが、大切そうにぬいぐるみを持っている彼にじょじょに笑みをうかべていました。けれどそれがさいこの笑顔でした。人間はほかの蛮族にこわされたのです。